

2011年教員業績一覧

(平成23年度)

天谷 祐子

著書・論文

- ・自我体験尺度の項目得点と自由記述内容による自我体験判定の対応の検討, 天谷祐子, 名古屋市立大学「人間文化研究」, 第16号, 177-185, 2011年12月
- ・第5章 乳幼児期の情動と自我・自己の発達(Pp.67-79) 保育の心理学 I, 成田朋子・大野木裕明・小平英志, 福村出版, 216ページ, 2011年10月15日
- ・12.自我のめざめ(刷り上り1~2ページの予定) 新・青年心理学ハンドブック, 青年心理学会, 総ページ数不明, 印刷中

学会報告

- ・The contribution of an “ego-experience” to independent and interdependent self-construal and resignation orientation, Yuko Amaya, The XVth *European conference on developmental psychology*, University of Bergen, Norway, 25, August, 2011
- ・「私はなぜ私なのか」という問いとユニークネス・社会的比較・心身-私観の関連, 天谷祐子, 日本心理学会第75回大会, 日本大学, 2011年9月15日
- ・5因子性格特性と自己愛的甘え、ユーモア態度との関連, 谷伊織・天谷祐子, 日本パーソナリティ心理学会, 京都光華大学, 2011年9月4日
- ・「私はなぜ私なのか」という問いと幸せの志向・脱中心化の関連 -体験後の自己成長の程度による視点から-, 天谷祐子, 日本発達心理学会第23回大会, 2012年3月9日
- ・こころ・身体(脳)の発達の变化を考える -哲学・医学・心理学の立場から- (特別シンポジウム), 長滝祥司・戸荊 創・麻生武(話題提供), 加藤義信(ファシリテーター・企画), 坂田陽子・天谷祐子(企画), 日本発達心理学会第23回大会, 2012年3月11日

有賀 克明

著書・論文

- ・生活科・総合学習, 有賀克明・行田稔彦・船越勝, 教育研究全国集会2011実行委員会編, 日本の民主教育, 大月書店, 309-319頁, 2011年12月

安藤 究

著書・論文

- ・「祖父母の親役割代替経験の認識と家族変動－祖父母性と専業主婦化の揺らぎの影響－」,
安藤 究, 『名古屋市立大学大学院 人間文化研究』, 第15号, 17-39頁, 2011年6月

学会報告

- ・「祖父母期への移行と人生の主観的経過速度：移行のタイミングとジェンダー化されたライフコースの影響」, 安藤 究, 東海社会学会, 中京大学, 2011年7月

上田 敏丈

著書・論文

- ・『なぜからはじめる保育原理』, 建帛社, 池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生 編著, 135ページ, 2011年4月
- ・『保育所・幼稚園実習』, ミネルヴァ書房, 池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生 編著, 212ページ, 2011年9月
- ・「大学と地域の連携による子育て支援の実践報告Ⅰ～地域子育てサロンの取り組みから～」,
上田敏丈・槇尾真佐枝・福知栄子, 『中国学園紀要』, 第10号, 139-145, 2011年6月
- ・「大学と地域の連携による子育て支援の実践報告Ⅱ～障害児支援団体との連携を中心に～」,
槇尾真佐枝・上田敏丈・福知栄子, 『中国学園紀要』, 第10号, 155-162, 2011年6月
- ・「幼児理解から出発する保育実践の意義と課題～幼児理解・保育計画(デザイン)・実践・省察の循環モデルの提案～」, 中坪史典・後藤範子・香曾我部琢・上田敏丈, 『子ども社会研究』, 第17号, 83-94, 2011年7月
- ・「保育援助に対する幼稚園教諭のふりかえりプロセス～異なるティーチング・スタイルに着目して～」, 上田敏丈, 『乳幼児教育学研究』, 第20号, 47-58, 2011年12月

学会報告

- ・「ティーチング・スタイルを視点とした保育者の語りに関する研究～TEMを用いた省察プロセスの分析～」, 上田敏丈, 『日本保育学会第64回大会』, 玉川大学, 2011年5月
- ・「カンファレンスにおける二人の保育者のふりかえりプロセス」, 上田敏丈, 『TEM研究会』, 立命館大学, 2011年7月
- ・Studies of cases of SHOKUIKU conforming to PDCA-cycles starting from understanding children in a nursery school, Noriko Goto, Harutomo Ueda, Taku Kosokabe, Fuminori Nakatsubo, the PECERA 12th conference, 神戸国際会議場, 2011年8月
- ・An analysis of reflection processes of a kindergarten teacher through conferences,

Harutomo Ueda, the PECERA 12th conference, 神戸国際会議場, 2011年 8 月

- ・「三層モデルに基づくティーチング・スタイル研究の意義と展望」, 上田敏丈, 『TEM 研究会』, 立命館大学, 2011年10月
- ・The Mimamoru Methodology and professionalism in early childhood education and care in Japan, Fuminori Nakatsubo, Harutomo Ueda, Mriko Inoue, Takako Kanda, NAEYC annual confernece, Orlando convention center, 2011年11月
- ・「カンファレンスにおける保育者の語りに関する研究」, 上田敏丈, 『日本乳幼児教育学会第21回大会』, 東京成徳大学, 2011年12月
- ・「保育者の行為選択プロセスに関する研究」, 上田敏丈, 『TEM 研究会』, 名古屋市立大学, 2012年3月

久保田 健市

学会報告

- ・新旧の同性友人からのサポートが大学生の適応感に及ぼす影響, 福田詩織, 久保田健市, 日本社会心理学会第52回大会, 名古屋大学, 2011年 9 月19日

鋤柄 増根

著書・論文

- ・乳幼児の行動のチェックリスト (ECBQ) 短縮版の作成, 中川敦子・木村由佳・鋤柄増根・水野里恵, 名古屋市立大学院人間文化研究科紀要 人間文化研究, 16, 1-16, 2011

学会報告

- ・シミュレーションデータによる心理検査の短縮版と完全版の等価性の検証方法, 鋤柄増根, 日本心理学会第75回大会, 日本大学, 2011年 9 月
- ・Attentional bias for threat and temperamental negative affectivity in early infancy. Nakagawa A., Sukigara M SRCD (Montreal) 2011年 4 月
- ・発達初期の睡眠覚醒リズムと気質の発達について 中川敦子・鋤柄増根 第58回日本小児保健学会(於名古屋) 2011年 9 月
- ・注意解放とエフォートフル・コントロールの初期発達について 中川敦子・鋤柄増根 第35回日本神経心理学会総会(於宇都宮) 2011年 9 月

滝村 雅人

著書・論文

- ・子ども（利用者）の理解、滝村雅人、「福祉施設実習」編集委員会、保育士をめざす人の福

社施設実習、(株) みらい、16-18、2011.4

- ・施設実習に向けての学習の実際、滝村雅人、朋 No2、134～136、2011.5
- ・発達障害学生への支援、滝村雅人、人間文化研究、No15、41～55、2011.6
- ・発達障害児への地域での支援、滝村雅人、野中壽子、人間文化研究、No16、55～67、2011.12

学会発表

- ・発達障害児のゲーム的遊びにおける動作スキルと対人行動の変容、野中壽子・穂丸武臣・滝村雅人、日本発達障害学会第10回記念大会、名古屋学院大学、2012.3

中川 敦子

著書・論文

- ・注意と自己制御 中川敦子 日本児童研究所編 児童心理学の進歩2011年度版 金子書房 30-55 2011
- ・乳幼児の行動のチェックリスト(ECBQ)短縮版の作成 中川敦子・木村由香・鋤柄増根・水野里恵、人間文化研究16号 1-15 2011

学会報告

- ・Attentional bias for threat and temperamental negative affectivity in early infancy. Nakagawa A., Sukigara M SRCD (Montreal) 2011年4月
- ・発達初期の睡眠覚醒リズムと気質の発達について 中川敦子・鋤柄増根 第58回日本小児保健学会(於名古屋) 2011年9月
- ・注意解放とエフォートフル・コントロールの初期発達について 中川敦子・鋤柄増根 第35回日本神経心理学会総会(於宇都宮) 2011年9月

成田 徹男

著書・論文

- ・ローマ字表記の問題点、成田徹男、人間文化研究、16号、93—102ページ、2011年12月

野中 壽子

著書・論文

- ・発達障害児への地域での支援、滝村雅人・野中壽子、人間文化研究、第16巻、pp55-67、2011年12月

学会報告

- ・発達障害を持つ子どもの遊びにみられる行動の経年的変化、野中壽子・穂丸武臣、日本保育

学会第64回大会，玉川大学，2011年 5 月

- ・発達障害児のゲーム的遊びにおける動作スキルと対人行動の変容，野中壽子・穂丸武臣・滝村雅人，日本発育発達学会第10回記念大会，名古屋学院大学，2012年 3 月

樋澤 吉彦

著書・論文

学会報告

- ・「心神喪失等医療観察法とソーシャルワークとの親和性について：心神喪失者等医療観察法における『生活支援』に内包する両義性をソーシャルワーカーが肯定するに至った経緯の分析を通して」日本社会福祉学会第59回秋季大会自由研究発表、淑徳大学、2011年11月9日

山田 美香

著書・論文

- ・公教育と子どもの生活をつなぐ香港・台湾の教育改革，風媒社，山田美香，380頁，2012年 3 月
- ・香港の中等教育，山田美香，名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』，第15号、151-168頁，2011年 6 月

学会報告

- ・香港の教育課程，山田美香，国際アジア文化学会2011年度大会，東海大学高輪キャンパス，2011年 6 月
- ・香港における群育学校，山田美香，第12回日本司法福祉学会全国集会おおさか大会，関西福祉科学大学，2011年 9 月
- ・中国における道德教育と社会科との合科，山田美香，日本道德教育学会第78回大会，武蔵野大学、2011年11月
- ・台湾の少年法院と少年刑務所，山田美香・張汝秀，国際アジア文化学会年末研究例会，地球飯店，2011年12月
- ・台湾の教育改革，山田美香，アジア教育学会第12回研究例会，名古屋市市政資料館、2012年 2月

吉村 公夫

著書・論文

- ・書評：孝橋正一著『全訂 社会事業の基本問題』2009年復刊、吉村公夫、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』、第16号、p.217～221，2011年12月

- ・書評：東北大震災に関連して、書評、二冊、吉村公夫、名古屋市立大学人間文化研究所『人間文化研究所年報』第7号、p.35～36、2012年3月

石川 洋明

著書・論文

- ・“Fukushima” が問いかけること、石川洋明、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』、16号、133～143頁、2011年12月。

学会報告

- ・暴力としてのいじめ ～研究のレビューと対策の検討～、石川洋明、日本社会学会第84回大会一般研究報告、於：関西大学、2011年9月17日。
- ・親密性と暴力 ～メカニズムと対策に関する一考察～、石川洋明、日本社会病理学会第27回大会自由報告、於：大正大学、2011年10月2日。

伊藤 恭彦

著書・論文

- ・国際正義とは何か、富沢克・伊藤恭彦・長谷川一年・施光恒・竹島博之訳、風行社、360頁、2011年6月
- ・アメリカの正義と地球の正義、伊藤恭彦、人権21、214号、25-31頁、2011年10月
- ・ブックガイドシリーズ基本の30冊 政治哲学、人文書院、伊藤恭彦、197頁、2012年1月
- ・平等・労働・グローバルな正義、伊藤恭彦、哲学と現代、27号、43-59頁、2012年2月
- ・現代政治学第4版、有斐閣、加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦、297頁、2012年3月

学会報告

- ・国境を越える社会正義の思想、伊藤恭彦、日本平和学会、新潟国際情報大学、2011年6月
- ・Global Justice and Global Capitalism, Yasuhiko Itoh, 第10回神戸記念レクチャー、中京大学、2011年7月

奥田 伸子

著書・論文

- ・「不可視化された女性労働者——戦後イギリスにおける非—『カラード』女性移住労働者」、奥田伸子、『人間文化研究』、15号、pp.135-149、2011年6月
- ・「第2次世界大戦後のイギリスにおける病院家事労働と移民女性——未熟練ではあるが不可欠な労働力の確保をめぐる」、奥田伸子、『現代史研究』、第57号、pp.1-20、2011年12月

菊地 夏野

著書・論文

- ・「在日フィリピン女性の不可視性」菊地夏野、岩崎稔・陳光興・吉見俊哉編『カルチュラル・スタディーズで読み解くアジア』せりか書房152-168
- ・「書評：女嫌い」菊地夏野、『論叢クィア』Vol.4 2011.9 198-208

学会報告

- ・コメンテーター 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センターシンポジウム「軍事施設と女性のくらし」2011.7.30

阪井 芳貴

学会発表

- ・「「同化」をめぐる研究のこれまでとこれからー思想ー郷土研究を中心にー」、阪井芳貴、復帰40年沖縄国際シンポジウム「これまでの沖縄学 これからの沖縄学」、早稲田大学、平成24年3月31日

菅原 真

著書・論文

- ・「フランス憲法ー憲法院と政治部門の協同関係による欧州統合の推進」、菅原真、中村民雄・山元一編『ヨーロッパ「憲法」の形成と各国憲法の変化』、信山社、89-108頁、2012年3月
- ・「フランス国旗の『青・白・赤』の色の由来について」、菅原真、『人間文化研究』第15号、125-134頁、2011年6月

学会報告

- ・「ヨーロッパ憲法と各国憲法：フランス」、菅原真、EUIJ早稲田・EU法研究会・SCOPUK（イギリス最高裁研究プロジェクト）・イギリス法研究会、早稲田大学、2011年9月20日

浜本 篤史

著書・論文

- ・御母衣ダムと荘白川地方の50年、浜本篤史編著、まつお出版、110頁、2011年6月.
- ・北京市崇文区における都市再開発と住民の経験（1990-2009）、浜本篤史編、住総研（丸善出版）、89頁、2011年10月.
- ・町村敬志編『開発の時間 開発の空間ー佐久間ダムと地域社会の半世紀』（東京大学出版会／2006年）、浜本篤史、「古賀河川図書館だより」第31号、2011年4月1日.
- ・アセスメント、浜本篤史、新版 キーワード地域社会学、ハーベスト社、348-349頁、2011年

5月.

- ・『環境紛争経験地域の再生』をめぐる議論からーダム事業を参照に一、浜本篤史、『東海社会学会年報』第3号、36-37頁、2011年6月.

学会発表

- ・北京における都市再開発事業の展開と変遷：「立ち退き問題」を中心に、浜本篤史、第23回日中社会学会大会、関西学院大学、2011年6月.
- ・ Compensation principle and practice for dam-induced displacement in Japan, Hamamoto, Atsushi, JICA ジャカルタ・北海道教育大学・ハサヌディン大学共催国際セミナー “Contribution of Academism to International Development Assistance: towards to poverty reduction”, Hotel Nikko Jakarta, June, 2011.
- ・ 社会学および援助業界における社会調査の異同、浜本篤史、国際開発学会第22回全国大会、名古屋大学、2011年11月.

藤田 栄史

著書・論文

- ・「若者が抱える困難・貧困と若者支援政策」『高校教育なごや』第38号、50-74頁、2012年3月。

矢野 均

著書・論文

- ・ 確率変数係数を含む階層型多目的線形計画問題に対する対話型意思決定, 矢野均, 日本経営システム学会誌, 27/3, 25-33, 2011
- ・ Two Fuzzy Approaches for Multiobjective Stochastic Programming and Multiobjective Fuzzy Random Programming Through a Probability Maximization Model, Hitoshi Yano and Kota Matsui, IAENG International Journal of Computer Science, 38/3, 234-241, 2011
- ・ 多目的確率線形計画問題に対するファジィアプローチ, 矢野均, 日本知能情報ファジィ学会論文誌, 23/3, 363-371, 2011
- ・ Fuzzy Approaches for Multiobjective Stochastic Linear Programming Problems Considering Both Probability Maximization and Fractile Optimization, Hitoshi Yano, Proceedings of 2011 IEEE International Conference on Fuzzy Systems, 1866-1873, 2011
- ・ 確率変数係数を含む階層型多目的線形計画問題に対する満足基準最適化モデルに基づく対話

型意思決定, 矢野均, 電子情報通信学会論文誌, J94-A, 568-576, 2011

- ・経営システム学への招待, 矢野均(日本経営システム学会編)、10章5節(3)あいまい環境における多目的意思決定, 日本評論社, 274-279, (総ページ数 326) 2011
- ・ファジィランダム多目的確率線形計画問題に対するファジィアプローチ, 矢野均, 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌, 54, 125-142, 2011

山田 明

著書・論文

- ・榊原秀訓編『自治体ポピュリズム』自治体研究社、2012年2月、197-226ページ分担
- ・「地方分権改革」と地方財政－東海圏の自治体を事例にして『人間文化研究』第16号、2011年12月、17-39ページ
- ・書評：田中重好著『地域から生まれる公共性』『東海社会学会年報』第3号、2011年6月、80-82ページ
- ・「東日本大震災から学ぶ」中部の環境を考える会『環境と創造』NO30、2011年12月、47-50ページ
- ・『「名古屋市税・財政の実態とあり方」研究グループ報告書』、2011年12月、1-11ページ

学会発表

- ・「東日本大震災から学ぶ－防災・減災まちづくりの課題」災害から住民を守る市民フォーラム、名古屋国際会議場、2011年7月9日

吉田 一彦

著書・論文

- ・『変貌する聖徳太子』（共著）平凡社、吉田一彦編、総頁数347、2011年、筆者執筆は「序論 聖徳太子信仰を解き明かす」（5-22）、「聖徳太子信仰の基調－四天王寺と法隆寺－」（23-80）、「コラム 『異本上宮太子伝』の写本と内容」（129-138）、「コラム 親鸞の聖徳太子信仰の系譜」（288-295）の四篇。
- ・『国分寺の創建 思想・制度篇』（共著）吉川弘文館、須田勉・佐藤信編、2011年、筆者担当は「国分寺国分尼寺の思想」吉田一彦、2-28
- ・「「大安寺文化圏論」の可能性－シンポジウム「上代における文化圏とは何か」に接して－」吉田一彦、『水門』23、71-74、2011年
- ・「古代国家の仏教儀礼と地域社会」吉田一彦、『芸能史研究』192、1-20、2011年

学会報告

- ・特別例会「最澄をめぐる諸問題－平安仏教史研究の課題として－」コメント「最澄研究の課

題」吉田一彦、仏教史学会、大谷大学、2011年4月16日

- ・「書評・上島享著『日本中世社会の形成と王権』」吉田一彦、宗教史研究会・神仏習合研究会（合同研究会）、名古屋市立大学、2011年11月27日
- ・「国家と仏教の二段階」吉田一彦、龍谷大学アジア仏教文化研究センター「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究・東アジアの国家と仏教Ⅲ」、龍谷大学、2011年12月9日

赤嶺 淳

著書・論文

- ・『海参戦役—從現場思考生物多様性與文化多様性』, 群學出版（台北）, 赤嶺淳（童琳・陳佳欣訳）, 384頁, 2011年5月.
- ・『クジラを食べていたころ—聞き書き 高度経済成長期の食とくらし』, グローバル社会を歩く研究会, 赤嶺淳, 213頁, 2011年12月.
- ・『島に生きる—聞き書き 能登島大橋架橋のまえとあと』, グローバル社会を歩く研究会, 赤嶺淳・森山奈美編, 191頁, 2012年1月.
- ・“What trepang teach us: A lesson from trepang trade networks between Malaysia and the Philippines,” Akamine Jun, In Ishikawa Noboru ed., *Flows and Movements in Southeast Asia: New Approaches to Transnationalism*, New edition, Kyoto: Kyoto University Press, pp 140-162, December 2011.
- ・“Reconsidering blast fishing within a world system: A civil war and development in the southern Philippines,” Akamine Jun, In *Proceedings of the 12th Symposium on Chinese Dietary Culture*, November 19-21, Okinawa. Taipei: Foundation of Chinese Dietary Culture, pp. 353-368, October, 2011.
- ・「食文化継承の不可視性?稀少価値化時代の鯨食文化の動態」, 赤嶺淳, 岸上伸啓編, 『捕鯨の文化人類学』, 成山堂, 207-224頁, 2012年3月.
- ・「『旅するウナギ』黒木真理・塚本勝巳著」, 赤嶺淳, 『vesta（食文化誌ヴェスタ）』85: 74-75, 2011年12月.
- ・「『御母衣ダムと荘白川地方の50年』」, 赤嶺淳, 『人間文化研究所年報』7: 43, 2012年3月.
- ・「自著を語る『島に生きる』」, 赤嶺淳, 『人間文化研究所年報』7: 47, 2012年3月.
- ・“How sea cucumbers sweep the world,” Akamine Jun, *Hong Kong discovery* 68: 84-89, Jan. 2012.
- ・「民意はいかに? 捕鯨に関する国民的議論を!—第63回IWCをふりかえって」, 赤嶺淳, 『水産界』2011年9月号（第1520号）: 29-32, 2011年8月.

- ・「NGO 参加拡充提案は、まやかしか？ —IWC63報告—」, 赤嶺淳, 『GGT ニューズレター』 90: 3-4, 2011年11月.

学会報告

- ・“Chinese foodways vs. marine environment?: A view from trade and consumption of dried marine products in Asia and the Pacific,” Akamine Jun, paper read at the 2012 Asian CORE Program Seminar: Interface, Negotiation, and Interaction in Southeast Asia on February 28 to 29, 2012, Center for Asia Pacific Area Studies, RCHSS, Academia Sinica, Taipei, on Feb. 29, 2012.
- ・“Reconsidering blast fishing within a world system: A civil war and economic development in the southern Philippines,” Akamine Jun, paper read at the 12th Symposium on Chinese Dietary Culture, Okinawa Prefectural Museum, Naha, Okinawa, on November 20, 2011.
- ・“Problems to conserve intangible living heritage: Politics on foodways and marine life conservation,” Akamine Jun, paper read at the first Conference of East Asian Environmental History (EAEH2011), Academia Sinica, Taipei, on October 25, 2011.
- ・「水産資源の稀少化と環境問題化：CITES とフィリピンのナマコ漁の現状を中心に」, 赤嶺淳, 第64回民族自然誌研究会@楽友会館、京都市, 2011年10月22日.
- ・「沿岸資源の利用と管理をめぐる同時代史的理解は可能か？：人類学的フィールドワークの課題と展望」, 赤嶺淳, 第3回「グローバル社会を歩く」研究会@JICA なごや地球ひろば, 2011年9月28日.
- ・“Die in peace and come back again: Functions of memorial services for wildlife in marine resource management in Japan,” Akamine Jun, paper read at the International Symposium on Society and Resource Management 2011, June 13 to 17 at Kota Kinabalu, Malaysia, on June 15, 2011.
- ・「『ナマコを歩く』とその後—「学問の同時代史的視座」の意義」, 赤嶺淳, 第4回環境政策史研究会@CIC 6F, 東京 2011年4月15日.

小林 かおり

著書・論文

- ・書評：「『世界文学』を超えて」, 『人間文化研究所年報』第7号、(2012年3月) 37-38頁.

学会報告

- ・“Intercultural Shakespeares in Asia: Tsubouchi Shoyo's Production of *Hamlet* in 1

911.” 9th World Shakespeare Congress. Prague. 19th July 2011.

- “Asian Shakespeare Intercultural Archive (ASIIA): A New Digital Project for Developing Research and Pedagogy.” British Shakespeare Association 10th Anniversary Conference. University of Lancaster. 25th Feb. 2012.

佐野 直子

著書・論文

- 「すべての言語は平等である。しかし、ある言語は、ほかの言語よりさらに平等である」佐野直子、in『多言語社会再考』（砂野幸稔編）三元社、pp.50-83
- 『たちあがる言語・ナワト語』新泉社、マリア・カステジャノス、佐野直子、敦賀公子（共著）、224頁、2012年3月
- 「ヨーロッパにおける『言語の領域性』ーバスク語脅威会地域のバイヨンヌ市の事例から」佐野直子、in『多言語社会研究会年報6号』多言語社会研究会編、pp.107-129
- “《Cal far la fèsta》: l'identité occitane et la culture régionale depuis les années 90” in *L'Occitanie invitée de l'Euregio, Actes de Neuvième Congrès International de l'AIEO*, Aix-la-Chapelle, 24-31 août 2008, pp.1009-1018
- 「書評『ベルギーの言語政策ー方言と公用語ー』」in『社会言語学 XI』, pp.143-153

学会報告

- “La Política lingüística de la lenga minoritària—enquesta als participants de la manifestacion 《À nem, òc! per la lenga occitana》 d'octòbre 2009 a Carcassona —” SANO Naoko, Xe Congrès International de l'Association Internationale d'Études Occitanes, Béziers, France, le 17 juin 2011
- ターブルロンド「現代フランス社会を考える」パネリスト 日本フランス語教育学会、南山大学、名古屋、2011年11月13日
- 「オクシタン語の言語運動と言語政策」in「言語政策史の国際比較研究」公開討論会 東京大学、2011年12月3日

田中 敬子

学会報告

- “From *Sanctuary* to *Requiem for a Nun*: Temple and Caddy” 田中敬子、Faulkner in the Media Ecology、ニューサウスウェールズ大学（シドニー）2011年11月25日

谷口 幸代

著書・論文

- ・川端康成『住吉』連作の〈原文〉と〈語り〉, 谷口幸代, 『国文学 解釈と鑑賞』, 76巻7号, 163-171頁, 2011年7月

学会報告

- ・Myth and Memory: The representation of War in Oba Minako' s Literature, Sachiyo Taniguchi, Association for Asian Studies, Hawai'i Convention Center, 3.4.2011
- ・川端康成「バッタと鈴虫」―〈掌の小説〉と〈掌の童話〉, 谷口幸代, 日本文学協会, 名古屋大学, 2011年7月3日
- ・田原の詩の日本語, 谷口幸代, シンポジウム「日本語で書く―非母語話者文学の成立」, 国際日本文化研究センター, 2012年1月28日

土屋 勝彦

著書・論文

- ・Identitätssuche in Lydia Mischkulnigs Roman "Umarmung", Masahiko Tsuchiya 『人間文化研究』15号 169-177 2011年6月
- ・Sinnliche Wahrnehmung, totale poetische Wahrheit, Algorithmus zum Übersetzen, Literaturbetrieb, Projekt Botanik u.a. ― Gespräch mit Ann Cotten, Masahiko Tsuchiya 『人間文化研究』16号 201-216 2011年12月
- ・ドイツ現代文化研究会活動報告、土屋勝彦、日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』43号 111-114 2011年11月
- ・プロジェクト研究「フロイトと独文学」土屋勝彦 『人間文化研究所年報』7号 54-56 2012年3月
- ・ドイツ現代文化研究会―ドイツ語圏若手作家たち 土屋勝彦 『人間文化研究所年報』7号 60-61 2012年3月

学会報告

- ・「響き合う文学的創造力―人間文化研究叢書第1巻『反響する文学』刊行を記念して」土屋勝彦、田中敬子、山本明代、谷口幸代 人間文化研究所マンデースロン 滝子キャンパス 1号館 1階会議室 2011年7月11日
- ・Einführung zu Erwin Einzinger, Masahiko Tsuchiya ドイツ現代文化研究会 2011年11月21日

寺田 元一

著書・論文

- ・『啓蒙の地下文書Ⅱ』野沢協監訳、藤原真実、寺田元一、三井吉俊、石川光一、楠本重行、飯野和夫訳、法政大学出版局、2011年5月、vii+1155ページ（うち、『新しき思想の自由』（pp. 677-763）の訳とその解題（pp. 1062-1081）を担当）
- ・Une 《façon》 copiée-collée de l'Encyclopédie ? : avatars de textes de l'HMARS à l'Enc. par l'intermédiaire de E. Chambers, Motoichi TERADA, 『百科全書』・啓蒙研究論集、1、1～40ページ、2012年3月

学会報告

- ・Une 《façon》 copiée-collée de l'Encyclopédie ? : avatars de textes de l'HMARS à l'Enc. par l'intermédiaire de E. Chambers, Motoichi TERADA, 国際18世紀学会大会、オーストリア・グラーツ大学、2012年7月27日
- ・『百科全書』のコピペ的制作術？－科学アカデミー『歴史と報告』から『百科全書』へのテキスト変容（チェンバーズを介して）－、寺田元一、『百科全書』研究会、慶應義塾大学、2012年12月3日

日木 満

著書・論文

- ・According to N の意味と名詞形：according to plan と according to the plan の違い、日木満、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』15号、103-123、2011年6月

平田 雅己

著書・論文

- ・「銃規制運動に賭ける青春－コリン・ゴダード、映画『32人のために生きる』のメッセージ」『人間文化研究所年報』2012年3月
- ・連載「オバマ政権時代の米国を見つめて」第4回～第8回、ピースあいちメールマガジン（2011年4月～8月）

学会報告

- ・“The Japan Peace for Vietnam Committee (Beheiren), American Deserters, and the US response, 1967-1968,” Visiting Scholar Roundtable, Sigur Center for Asian Studies, GWU (April, 2011)

別所 良美

著書・論文

- ・「平等論と労働観の変容にむけて」, 別所良美, 名古屋哲学研究会『哲学と現代』, 第27号, p.4-12, 2012年2月
- ・「ドイツにおけるベーシック・インカム」, 別所良美, 名古屋哲学研究会『哲学と現代』, 第27号, p.80-96, 2012年2月

山田 敦

著書・論文

- ・陸運, やまだあつし, 和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真編, 岩波講座東アジア近現代通史 別巻アジア研究の来歴と展望, 219-234頁, 平成23年9月
- ・「神戸と台湾」その14 神戸で開催された第2回水産博覧会の台湾展示, やまだあつし, 兵庫県台湾同郷会会報, 167号, 15-17頁, 平成23年9月
- ・1950年代における日本の台湾輸出, やまだあつし, 人間文化研究, 第16号, 119-132頁, 平成23年12月

山本 明代

著書・論文

- ・「アメリカ合衆国スロヴァキア系集団の祝祭」, 山本明代, 『反響する文学』, 土屋勝彦編, 風媒社, 121-153頁, 2011年3月
- ・「18世紀ペーチのなめし革職人とギルド」, A pécs tímárok és céhük a 18. században, 山本明代, 『東中欧・バルカン地域における職能集団をめぐるインターカルチュラル圏の形成と変容』名古屋市立大学大学院人間文化研究科ペーチ・バルカン研究会, 30-31頁, 65-66頁, 2011年3月
- ・2010年の歴史学界一回顧と展望「ヨーロッパ（現代—ロシア・東欧・北欧）」, 山本明代, 『史学雑誌』, 第120編, 第5号, 373-378頁, 2011年5月
- ・書評: 『ポストコロナリズムとジェンダー』(菊地夏野著, 青弓社), 山本明代, 『人間文化研究所年報』, 第6号, 79-81頁, 2011年3月
- ・「東中欧・バルカン地域におけるインターカルチュラル圏の形成と変容」ハンガリーのペーチ大学との共同研究コンフェレンスとワークショップの開催, 山本明代, 『人間文化研究所年報』第6号, 107-108頁

学会報告

- 第二次世界大戦後ハンガリーにおける住民交換と強制移住—ドナウ川以西地域を中心に—, 山本明代, 東中欧・バルカン地域におけるインターカルチュラル圏の形成と変容, 名古屋市立大学, 2011年11月5日
- 修士論文コメント (加藤民記, 立教大学, ポーランド問題と国際関係—ポロニア, ウィルソン, パデレフスキ), 山本明代, 日本アメリカ史学会第21回例会 (修士論文報告会), 東京女子大学, 2011年6月18日